



加賀市長からのメッセージ 第037号 7月16日配信

加賀市は今、未来を見据え、その歩みを加速させています。その道のりにおいて、昨日、加賀市にとって極めて重要な一歩を踏み出すことができました。北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）の客員教授である今井翔太氏に、加賀市のAI（人工知能）アドバイザーに就任いただきました。今井氏は、金沢市のご出身で、石川県にゆかりの方です。そして、AIの専門家に支援いただくのは市で初めての試みとなります。

加賀市の政策の重要な柱は「先端技術の導入」と「人材の育成」です。これは加賀市が持続的に発展していくため、そこには既存の枠組みにとらわれない産業構造の変革が必要だと考えています。そこにAIはなくてはならないコアテクノロジーであると確信しております。

人工知能の進化は、まさに日進月歩です。特にこの数年間における進展は目覚ましく、専門家の間では、5年から10年という短い期間で汎用人工知能（AGI）が誕生する可能性も指摘されています。このような劇的な変化の時代において、加賀市が生き残っていくためには、AIに関する知見を深め、関連産業を積極的に呼び込み、そしてこの分野を担う優秀な人材を誘致していくことが不可欠となります。AIを都市経営に活用し、市民生活の質の向上、産業競争力の強化、そして行政サービスの効率化を図ることが、私たちの喫緊の課題であり、同時に大きなチャンスであると考えております。

今回AIアドバイザーとして加賀市にお迎えした今井氏は、わずか20代の頃から既に国の有識者会議に名を連ねるなど、人工知能分野における卓越した見識と実績をお持ちです。委嘱式においては今井氏からも「加賀市には先端技術を受け入れる素地があり、人口減少などの喫緊の課題にまさに取り組んでいるところで、AIによる解決が期待できる部分が多い」という、加賀市の可能性に対する力強い言葉をいただきました。

また、今井氏は、人手不足に悩む地元企業の問題解決や、先端技術を活用した新たな協業の創出にも強い意欲を持っています。これは、AI技術の導入が単なる効率化に留まらず、地域経済全体の活性化、ひいては新たな雇用機会の創出にも繋がるという、私たちのビジョンと完全に合致するものです。地域に根差した課題をAIで解決し、同時に新たな価値を生み出すという視点は、これからの加賀市にとって極めて重要であると認識しております。

加賀市の未来は、AIという強力なツールと共に、さらに明るく、豊かに、そして持続可能なものへと発展していくこととなるでしょう。市民の皆様には、この新たな挑戦にご期待いただくとともに、引き続き市政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（令和7年7月16日号）

加賀市長 宮元 陸